

平成22年度決算

事業の成果をどう立証するか

福祉、子育て、教育の充実、環境、景気対策の効果は

今週の活動から



道路の凹凸を歩いて調べました。
(上: 釘丸議員)
夏祭りでお茶を飲む 栗山議員 (右)



平成22年度 決算状況

会計名	歳入総額	歳出総額	差引額
一般会計	769億4608万円	752億3773万円	17億0835万円
公共用地取得	30億7519万円	30億7519万円	0
老人保健医療	1943万円	1749万円	193万円
後期高齢者医療	16億1661万円	16億0252万円	1409万円
国民健康保険	224億8090万円	220億2845万円	4億5244万円
介護保険	80億3307万円	79億7423万円	5884万円
交通災害共済	6102万円	5665万円	437万円
自動車駐車場	2億1447万円	2億1020万円	426万円
公共下水道	58億7435万円	56億5441万円	2億1993万円
合計	1183億2116万円	1158億5691万円	24億6424万円

平成22年度厚木市健全化判断比率(%)

区分	実質赤字比率%	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
19年度	(▲6.3)	(▲11.7)	5.7	63.5
20年度	(▲4.15)	(▲8.58)	5.7	55.8
21年度	(▲4.58)	(▲8.78)	5.2	54.0
22年度	(▲2.75)	(▲7.45)	4.6	58.6
22年度—21年度	1.83	1.33	▲0.6	4.6
早期健全化基準	11.35	16.35	25.0	35.0

厚木市の主な基金 (千円)			主な市債(市の借金) (千円)		
	22年度末	21年度末		22年度末	21年度末
財政調整	2,869,139	4,115,291	一般会計	50,329,081	51,191,870
国民健康保険	788,081	786,816	駐車場建設債	0	98,458
社会福祉	370,705	371,554	下水道建設債	29,809,423	31,579,805
みどり	482,949	485,594			
介護保険	1,026,546	959,594			
合計(その他含む)	7,846,870	8,640,102			



厚木市議会9月定例会が、8月30日(火)から10月4日(火)の36日間で開催されます。今議会は、主に平成22年度の決算の審査を行います。

平成22年度一般会計は、歳入が769億4608万円、歳出は752億3773万円、繰越額は17億835万円です。翌年度繰越財源(すでに支出が決まっている経費)が4億8596万円ありますから、実質的な繰越額は12億2238万円です。この金額は昨年(24億9684万円)の半分になっています。

事業の評価は決算委で市は、あつぎ元氣アップ政策として、「健康福祉」「子育て支援」「教育の充実」「環境対策」「安心・安全」「景気対策」を積極的に取り組んだとしています。

小児医療費助成事業の年齢拡大(22年7月に小学校卒業まで)は大きな成果です。住宅用太陽光発電への助成もしています。しかし、ひとつひとつの事業が、どのように経済の活性化につながったのか、

子どもたちが生き生きと学習できるようになったのか。治安はどのように改善されたのかなど、具体的な効果については、十分検証されていません。

決算特別委員会は、個々の事業についてその成果と問題点を明らかにするものです。それが次の事業展開の方向性を決めていきます。

日本共産党議員団では、釘丸久子議員が決算特別委員会委員として審議に臨みます。